

ISSN 0912-778X

# 穂別町立博物館館報

第11号

平成5(1993)年度

穂別町立博物館

## 目次

- 浴 館 改 革 …… ( p 1 )
- 施 設 の 概 要 …… ( p 4 )
- 展 示 活 動 …… ( p 4 )
- 収 蔵 資 料 概 要 …… ( p 6 )
- 収 集 保 存 活 動 …… ( p 6 )
- 調 査 研 究 活 動 …… ( p 7 )
- 普 及 教 育 活 動 …… ( p 9 )
- 運 営 …… ( p 1 1 )

## ●沿革

「この博物館は、国の公立社会教育施設整備事業及び北海道市町村振興事業の補助を受け建設されたものである。」

穂別町立博物館は昭和50(1975)年の長頸竜「ホベツアラキリュウ」標本の発見がきっかけとなって建設された。その当初は「穂別町郷土資料館」として計画され、建設計画中に「穂別町立博物館」として名称変更された。名称変更後の館活動は「本町で発見される化石(自然史)」の研究・保存・普及と「町の歴史(人文)」の保存・普及を行う二面性を備えた総合博物館であった。その後、約10年にわたる博物館活動の結果蓄積された自然史資料の重要性と人文系資料の保存活動に要する作業量にアンバランスを生じ、活動方針の変更が行われた。その基本活動方針は、「穂別地域で産出する古生物(化石)を材料とし『地球と生命の歴史を考える』総合博物館とする」である。その後現在にいたるが、ここではその経緯を記録し、今後の活動の充実と強化につとめていきたい。

### I 「建設の目的」と「展示更新」の基本的考え方

〈穂別町郷土資料館建設の目的〉(昭和55(1980)年11月26日)

『本町は、クビナガリュウをはじめデスモスチルス、海ガメなど多くの動植物の化石が発見されることから、道内でも特異な地質条件にあることが予想される。こうした自然環境を背景に、先人は寒冷地での生活に耐え抜いて開拓の苦闘に打ち勝って穂別の歴史を展開してきた。穂別町開基70年(町制施行20年)を記念して、本町の地質系統と生物の進化、開拓の足跡を示す歴史資料を収集・保存・展示して、先人がいかに自然との調和を図りながら開拓を進めてきたかを理解し、そして未来を創造するために穂別町郷土資料館を建設するものである。』

〈展示更新の基本的考え方〉(平成2(1990)年6月27日)

『穂別地域で発見される脊椎動物を始めとするさまざまな化石群が、学術的に貴重なものであることは主張するまでもない。さらに、化石を古生物としてみた場合、学術的な意味を離れても、一般の観覧者にさまざまな示唆を与えてくれるものなのである。

旧来の博物館と異なり、化石をいわゆる「変・古・珍」として扱わず、「我々人間につながる生き物」として見ることを展示の基本に置く。実物は「穂別地域産」にこだわり、模型は「生きていたときの姿」にこだわる。そして、現在の種々の生き物達の関係と同じく、過去の「古」生物達にも同様の生態系と

しての関連があったこと、さらに、それらは数十億年も昔から現在にかけて綿々と続く「生命の歴史」の1頁1頁であることを理解させる博物館とする。』

### II 沿革(年表)

昭和50(1975)年6月

穂別町字長和において、脊椎動物化石の入った母岩を発見、一部採集。発見者：荒木新太郎氏(穂別町在住)。

昭和51(1976)年9月

佐藤昌人(苫小牧青少年センター)指導員・佐藤隆久(穂別町立仁和小学校)教諭、荒木氏発見の化石を長谷川善和(国立科学博物館)主任研究員に鑑定依頼。

昭和52(1977)年2月

長谷川主任研究員の鑑定結果が新聞で報道。白亜紀海棲爬虫類の鱗の一部と確認。

昭和52(1977)年7月5～8日

「穂別町首長竜化石発掘調査団」：結成、発掘調査。後に、この標本を「ホベツアラキリュウ」標本と命名。

昭和53(1978)年5月

「ホベツアラキリュウ」標本のクリーニング(剖出)作業開始。

昭和53(1978)年11月

穂別町立郷土資料館、開館(旧・穂別町立くら保育所施設利用)。

昭和54(1979)年5月

長頸竜化石骨、穂別町指定文化財第2号に指定。



- 昭和55(1980)年10月16日  
「穂別町郷土資料館建設計画検討委員会」：  
発足。
- 昭和55(1980)年11月26日  
建設の目的，設定（前出）。
- 昭和56(1981)年3月13日  
施設の名称を穂別町郷土資料館から穂別町立  
博物館に変更。
- 昭和57(1982)年2月10日  
展示シナリオ決定。
- 昭和56(1981)年7月～12月  
博物館建設工事行われる。
- 昭和56(1981)年9月1日  
鈴木茂学芸員採用。
- 昭和57(1982)年1月16日  
長頸竜復元作業開始。
- 昭和57(1982)年3月～6月  
博物館展示工事行われる。
- 昭和57(1982)年7月20日  
博物館開館。一般公開開始（初代館長：今幸  
太郎教育長兼任）。
- 昭和57(1982)年8月26日  
「博物館協議会」発足。
- 昭和57(1982)年12月19日  
長頸竜復元骨格展示公開。
- 昭和57(1982)年12月19日  
特別展「よみがえるクビナガリュウ」開催。
- 昭和58(1983)年3月27日  
「穂別町立博物館研究報告」刊行開始。
- 昭和58(1983)年3月28日  
「博物館協力会」設立。
- 昭和58(1983)年4月  
博物館広報「ホッピーだより」刊行開始。
- 昭和58(1983)年4月28日  
菅原康次（第二代）館長就任。
- 昭和58(1983)年7月22日～8月7日  
収蔵資料展「地図展」開催。
- 昭和58(1983)年11月1日～3日  
町民文化祭「こけし展」開催。
- 昭和59(1984)年2月  
村上隆著，「よみがえるクビナガリュウ」発  
刊。
- 昭和59(1984)年6月14日  
第二展示室（町立博物館保存庫）完成。
- 昭和59(1984)年11月1日～4日  
収蔵資料展「古い写真・古い文書展」開催。
- 昭和59(1984)年12月1日  
桜庭勝美（第三代）館長就任。
- 昭和60(1985)年3月30日  
「穂別町立博物館館報」刊行開始。
- 昭和60(1985)年3月31日  
鈴木茂学芸員退職。
- 昭和60(1985)年5月1日  
地徳力学芸員就任。
- 昭和60(1985)年11月1日  
特別展「北海道一億年」開催。
- 昭和60(1985)年11月3日  
移動博物館コンサート開催。
- 昭和61(1986)年10月21日  
特別展「穂別の自然」開催。
- 昭和62(1987)年1月1日  
桜庭勝美館長退任（第四代館長：今幸太郎教  
育長兼任）。
- 昭和62(1987)年3月31日  
都田 哲学芸補助員退職。
- 昭和62(1987)年7月28日  
特別展「アンモナイトの系図」開催。
- 昭和63(1988)年7月17日  
第3展示室（保存庫）完成。
- 昭和63(1988)年7月30日  
「ぎふ中部未来博」に長頸竜化石骨貸出。
- 昭和63(1988)年8月23日  
特別展「穂別のカメラ化石」開催。
- 昭和63(1988)年10月6日  
今 幸太郎（第五代）館長就任（専任）。
- 平成1(1989)年6月30日  
仲谷 英夫氏（香川大学助教授）：長頸竜ホ  
ベツアラキリュウ標本の記載論文公表。

平成1(1989)年7月18日  
特別展「穂別のむかし」開催。

平成1(1989)年9月29日～10月6日  
学芸員，カナダ・アルバータ州ティール古生物学博物館に派遣。

平成2(1990)年6月27日  
博物館協議会にて，「展示更新計画」基本方針説明。

平成2(1990)年7月23日  
ドラムヘラー市長夫妻（カナダ，アルバータ州）来館。

平成2(1990)年8月18日  
特別展「戦争と穂別」開催。

平成2(1990)年9月3日～5日  
レイド，M. G. 氏（アルバータ州ティール古生物学博物館）来館。

平成2(1990)年12月31日  
今 幸太郎館長退職（第6代館長：野田藤雄教育長兼任）。

平成3(1991)年4月1日  
佐藤 稔（第7代）館長就任・庶務係に正職員配置。

平成3(1991)年4月28日，29日  
入館者10万人突破記念事業。

平成4(1992)年2月1日  
展示更新工事開始。

平成4(1992)年4月23日～25日  
カリー，P. J. 氏（アルバータ州ティール古生物学博物館）来館。

平成4(1992)年4月29日  
展示更新完了，一般公開再開。

\*本年表において「長頸竜」・「首長竜」・「クビナガリュウ」あるいは「ホベツアラキリュウ」などの使い分けを行っているが，以下に従っている。

「長頸竜」：動物分類上の order PLESIOSAURIA の和訳として用いている。「蛇頸竜目」または「長頸竜目」が正式。

「首長竜」：分類学上の名称としては適切ではないが，この場合「発掘調査団」の固有名称として使用。

「クビナガリュウ」：正式には「蛇頸竜目」または「長頸竜目」あるいはそのカタカナ綴りにするべきであるが，通俗名として普及しているために本の題名として用いられたのであるから，この場合固有名称として使用。

「ホベツアラキリュウ」：昭和52(1977)年7月5～8日に「穂別町首長竜化石発掘調査団」によって発掘された標本の名称。

## ●施設の概要

### 【位 置】

北海道勇払郡穂別町字穂別80番地の6

### 【構造規模】

建築構造：鉄筋コンクリート平屋建（本館）

建築面積1,232m<sup>2</sup>

常設展示室	372.88m <sup>2</sup>
第2展示室	99.37m <sup>2</sup>
第3展示室	32.40m <sup>2</sup>
特別展示室	99.08m <sup>2</sup>
収蔵庫	86.56m <sup>2</sup>
事務室	40.50m <sup>2</sup>
研究室	31.50m <sup>2</sup>
整理室	29.92m <sup>2</sup>
学習展示室	184.75m <sup>2</sup>
書庫	35.05m <sup>2</sup>
共用部門	219.76m <sup>2</sup>

### 【工 期】

昭和56年度～57年度

### 【総事業費】

3億7,276万5,000円

### 【展示更新】

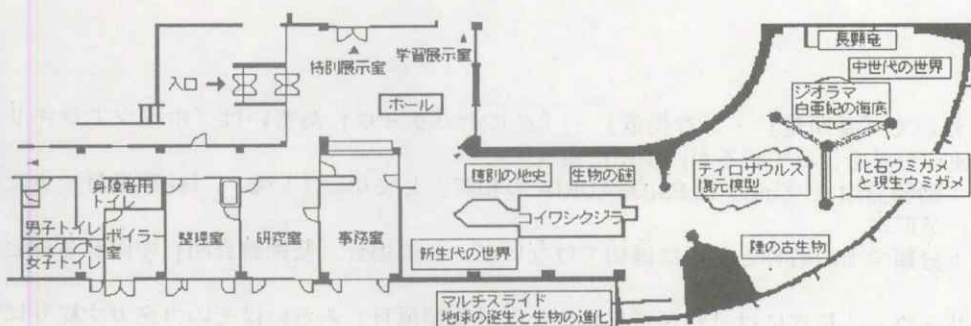
平成3年度～平成4年度：博物館展示替え工事、  
平成5年度：マルチスライド、イメージソフト制作。

### 【更新事業費】

平成3年度～4年度：99,910,000円（内消費税 2,910,000円）

平成5年度：6,890,700円（内消費税 200,700円）

## ●施設平面図





## ●展示活動

### I 特別展

諸般の事情により平成5(1993)年度の特別展示は実施できなかった。

### II 常設展示

#### 【学校週休二日制記念事業】

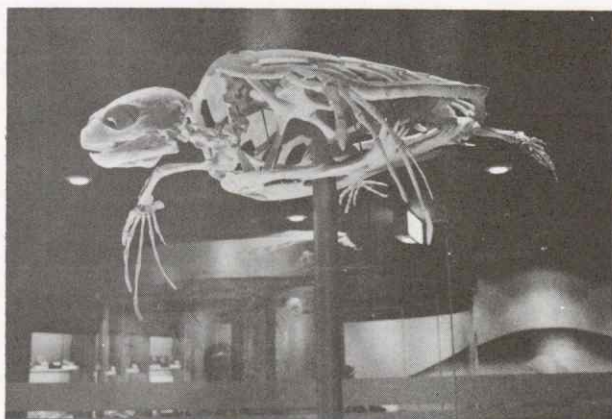
学校週休二日制実施にあわせて町民無料観覧を実施。毎月第二土曜日を町内の児童生徒無料観覧の日とする。

#### 【博物館開館記念日関連事業】

7月20日の開館記念日に関連して、平成5(1993)年7月18日(日)～7月25日(日)を町民無料観覧の日とした。

#### 【常設展示資料】

長頸竜化石	11点
モササウルス	6点
カメ化石	9点
魚竜化石	1点
魚類化石	7点
頭足類化石	85点
巻貝化石	27点
二枚貝化石	39点
掘足類化石	3点
甲殻類化石	9点
ウニの化石	5点
クジラの化石	8点
デスモスチルスの化石	4点
マンモスの化石	1点
植物化石	2点
霊長類化石	7点
岩石その他	27点
計	251点



#### 【博物館特定入館日に伴う町民無料入館者利用状況調べ】

実施日	行事名	一般	小・中・高生	計
4～3月	学校週5日制(年11回実施)	4	94	98
7.18～25	博物館開館記念日(1週間)	62	49	111
9.15	敬老の日	16	12	28
11.3	文化の日	18	10	28
11.23	勤労感謝の日	11	4	15
1.15	成人の日	2	1	3
計	延べ22日	113	170	283

\*学校週5日制の実施は2月のみ建国記念日に伴う振替休館日より未実施

## ●収蔵資料概要

### 【自然史系資料】

収蔵場所	動物	植物	その他	計
常設展示室	174	2	18	194
整理室	1	0	0	1
貸出中	18	0	0	18
収蔵庫	827	4	6	837
計	1020	6	24	1050

(1994.3.31.現在；未登録資料は除く)

### 【自然系資料】

収蔵場所	動物	植物	その他	計
常設展示室	1	0	0	1
第二展示室	7	0	0	7
収蔵庫	46	23	0	69
計	54	23	0	77

### 【人文系資料】

収蔵場所	生活	産業	その他	計
常設展示室	0	0	0	0
第二展示室	665	1,030	26	1,721
第三展示室	96	32	21	149
収蔵庫	107	252	1,419	1,778
貸出中	0	5	1	6
計	868	1,319	1,467	3,654

## ●資料収集保存活動

平成5(1993)年4月1日から平成6(1994)年3月31日までに寄贈・採集した資料を順に記した。(敬称略)

### I 寄 贈

#### 【自然史系資料】 14件 236点

骨の化石	1点	荒木新太郎
骨の化石	1点	千歳化石会(佐々木)
アンモナイトほか	2点	岩田正敏
貝化石	1点	新田耕三
長頸竜化石	1点	鳴原崇之
アンモナイト	2点	石崎正行
ノジュール	1点	小西堅三
現生の貝類ほか	101点	小林一秀
アンモナイト・生痕化石	2点	松本達郎
笠型巻貝ほか	2点	笠巻毅俊男
骨の化石	1点	千歳化石会(飯部)
骨の化石	2点	阿部利春
骨の化石	1点	今野健一

#### 【自然系資料】 2件 2点

野鳥遺体(アオバト)	1点	山越昭一
動物遺体(シカ頭骨)	1点	苫小牧営林署穂別事業所
現生貝類	73点	高橋博志
現生貝類	39点	地徳力
現生貝類	9点	佐藤稔

#### 【人文系資料】 3件 3点

行火	1点	荒谷市蔵
石斧	1点	石崎正行
故横山正明資料	1点	穂別町教育委員会

### II 採 集

#### 【自然史系資料】

5月22日	字穂別	骨(クジラ脊椎)ほか(3点)
7月25日	字長和	長頸竜(1点)
8月1日	字長和	長頸竜(多数)

### III 寄 託

平成6(1994)年3月31日現在で寄託中の資料

#### 【自然史系資料】

阿部利春：アンモナイト (1点)

#### 【人文系資料】

佐久間正雄：郷土史資料 (2点)



## ●調査研究活動

### I 脊椎動物化石の研究

#### 【総論】

鈴木茂(元穂別町立博物館学芸員)

公表論文:

[1984]穂別町立博物館研究報告,[1],47-52.

地徳力(穂別町立博物館)学芸員

[1990]穂別町立博物館研究報告,[6],37-35.

[1993]日本地質学会第100年学術大会(東京)夜間小集会口頭発表

#### 【デスモスチルス】

木村方一(北海道教育大学)教授に研究委託

公表論文:

[1984]穂別町立博物館研究報告,[1],11-23.

[1984]地団研専報,[28],51-61. (松井・山口氏と共著)

[1985]穂別町立博物館研究報告,[2],51-62.

赤松守雄(北海道開拓記念館)学芸員に研究委託

公表論文:

[1984]地団研専報,[28],63-68.

#### 【クジラ】

木村方一(北海道教育大学)教授に研究委託

一島啓人(信州大学)氏に研究委託

[1992]穂別町立博物館研究報告,[9],37-44.

#### 【ウミガメ】

平山 廉(帝京技術科学大学)講師に研究委託

公表論文:

[1985]穂別町立博物館研究報告,[2],17-30. (鈴木茂氏と共著)

[1992]穂別町立博物館研究報告,[8],17-57.

[1992]日本地質学会第99年学術大会(熊本)口頭発表

[1993]日本地質学会第100年学術大会(東京)口頭発表

#### 【長頸竜】

中谷英夫(香川大学)助教授に研究委託

公表論文:

[1981]日本地質学会第88年学術大会(東京)口頭発表

[1982]日本地質学会第89年学術大会(新潟)口頭発表

[1982]動物と自然,12,11-16.

[1984]穂別町立博物館研究報告,[1],37-40.

[1985]穂別町立博物館研究報告,[2],43-49.

[1989]穂別町立博物館研究報告,[5],43-48.

[1989]日本古生物学会報告・記事,[154],96-116.

#### 【モササウルス】

鈴木 茂(元穂別町立博物館学芸員)氏が研究

公表論文:

[1985]穂別町立博物館研究報告,[2],31-42.

[1985]地学団体研究会専報,[30],45-66.

地徳 力(穂別町立博物館)学芸員が別資料の研究継続

公表論文:

[1987]日本地質学会第94年学術大会(大阪)口頭発表

[1990]日本地質学会第97年学術大会(富山)口頭発表

[1990]日本地質学会北海道支部報,[1],45-46

[1991]穂別町立博物館研究報告,[7],9-14. (紀藤典夫氏と共著)

[1994]穂別町立博物館研究報告,[10],39-54頁

#### 【サメ】

久家直之,京都大学大学院院生に研究委託

公表論文:

[1985]穂別町立博物館研究報告,[1],33-36.

## II 刊 行 物

#### 【穂別町立博物館館報】

第10号,12頁平成5(1993)年7月31日発行

#### 【穂別町立博物館研究報告】

第10号,54頁:平成6(1994)年3月30日発行

#### 【著者及び論文題名】

松本達郎・野田雅之・蟹江康光・吉川幸叙・利光誠一・米谷盛壽郎・花方聡:1-25頁,図版I~X

北海道穂別地域におけるセノマニアン・チュロニアン推移部の層序

利光誠一:27-33頁,図版I

北海道穂別町稲里地域の白亜系中部より産出した生痕化石 *Zoophycos* 及び *Chondrites*

について

利光誠一：35-38頁

北海道穂別町富内地域フカウシ沢川から産出した *Inoceramus (Platyceramus) japonicus*

の地質学的意義

地徳力：39-54頁,図版 I ~IV

北海道穂別地域産ティロサウルス（モササウルス類）について

## ●普及教育活動

### I 博物館講座

#### 【自然観察会】

実行事業無し

#### 【化石クリーニング教室】

学芸補助員職未補充のため定期講座は閉講。  
学校などの団体に要望があれば随時開講と  
した。

### II ホッピーだより (博物館広報)

#### 【主な内容】

101号(平成5(1993)年4月)

『地震の話』

102号(平成5(1993)年5月)

＝お礼＝平成4年:1992年博物館収集資料に  
ついて

103号(平成5(1993)年6月)

『化石の里・トピックス(1)』

104号(平成5(1993)年7月)

『化石の里・トピックス(2)』

105号(平成5(1993)年8月)

『化石の里・トピックス(3)』

穂別地域で見られる生きている化石(1)

106号(平成5(1993)年9月)

『化石の里・トピックス(4)』

穂別地域で見られる生きている化石(1)

107号(平成5(1993)年10月)

『化石の里・トピックス(5)』

穂別地域で見られる生きている化石(3)

108号(平成5(1993)年11月)

『化石の里・トピックス(6)』

穂別地域で見られる生きている化石(4)

109号(平成5(1993)年12月)

『化石の里・トピックス(7)』

穂別地域で見られる生きている化石(5)

110号(平成6(1994)年1月)

『イヌ・犬・戌の話』

111号(平成6(1994)年2月)

『化石の里・トピックス(8)』

穂別地域で見られる生きている化石(6)

112号(平成6(1994)年3月)

『化石の里・トピックス(9)』

生きている化石ってなに？

### III その他

#### 【穂別町教職員新任者研修】

平成5(1993)年5月15日：穂別町新任教職員  
(24名)館内研修

#### 【北海道理科教育研究会・苫小牧支部巡検】

平成5(1993)年9月22日：北海道理科教育研  
究会・苫小牧支部巡検指導

#### 【千歳化石会講演会】

平成5(1993)年11月28日：「化石についての  
最近の話題」講演

#### 【村立穂別高校(講演)】

平成6(1994)年1月25日：「村立穂別高校」  
にて「クビナガリユウ時代」講演

#### 【町内教育・福祉団体の利用】

平成5(1993)年4月22日：穂別町立穂別中学  
校(2名)

平成5(1993)年5月19日：穂別町立穂別小学  
校(27名)

平成5(1993)年7月1日：穂別町立富内小学校  
(5名)

平成5(1993)年10月16日：穂別町立富内小学  
校(4名)

平成5(1993)年10月29日：穂別町立和泉小学  
校(14名)

平成6(1994)年3月9日：穂別町立穂別中学校  
(柏学級)(4名)

平成6(1994)年3月16日：穂別さくら保育所(3  
才児)(26名)

平成6(1994)年3月16日：穂別さくら保育所(5  
才児)(27名)

平成6(1994)年3月18日：穂別さくら保育所(4  
才児)(22名)

平成6(1994)年3月18日：穂別さくら保育所  
(未満児)(11名)

#### 【町外教育・福祉団体の利用】

平成5(1993)年5月：

12日：北海道立音更高等学校(248名)

14日：標茶町立磯分内中学校(19名)



平成5(1993)年6月：

- 2日：白老町立白老中学校(187名)
- 9日：北海道札幌平岸高等学校(469名)
- 20日：恵庭市ことばを育てる親の会(65名)
- 22日：平取町立平取中学校(53名)
- 29日：札幌市真駒内養護学校(17名)
- 29日：静内町立静内小学校(67名)

平成5(1993)年7月：

- 1日：旭川市立春光台中学校(153名)
- 1日：登別市立鷺別中学校特殊学級(5名)
- 4日：喜茂別町教育委員会少年教育「わんぱく道場」(40名)
- 6日：札幌市立山の手小学校(143名)
- 13日：平取町立豊糠小中学校(6名)
- 15日：登別市立緑陽中学校PTA(49名)
- 16日：平取町立貫気別中学校(70名)
- 16日：鶴川町宮戸保育園(40名)
- 16日：南富良野町立下金山中学校(10名)
- 21日：鶴川町立鶴川中学校(114名)
- 24日：広島町立大曲中学校PTA(18名)
- 27日：富良野市立麓郷中学校(23名)
- 27日：広島町みどりの里子供会(52名)
- 27日：音威子府村立中学校(10名)
- 28日：室蘭海洋少年団(14名)

平成5(1993)年8月：

- 1日：白老町竹浦中央子供会(54名)
- 1日：当別町東裏小学校(23名)
- 3日：札幌市北野サッカースポーツ少年団(39名)

- 10日：富良野市立麓郷中学校(22名)
- 11日：滝川市少年科学クラブ(48名)
- 11日：三石町少年少女体験クラブ(12名)
- 20日：厚真町怪舞さくら保育園(24名)
- 27日：占冠村トマム保育所(16名)

平成5(1993)年9月：

- 2日：恵庭市立若草小学校(165名)
- 7日：札幌市立上白石小学校(53名)
- 7日：苫小牧市立沼の端中学校PTA(39名)
- 10日：苫小牧市立樽前小学校(27名)
- 14日：苫小牧緑星の里(18名)
- 29日：北海道工業高等学校(203名)

平成5(1993)年10月：

- 1日：上富良野町立上富良野中学校PTA(33名)
- 2日：北海道文理科短期大学(157名)
- 3日：秋田大学鉱山学部(18名)
- 3日：美唄市立東中学校PTA(27名)
- 7日：北海道教育大学・釧路校(20名)
- 8日：静内町立桜丘小学校(56名)
- 14日：早稲田大学院・地質学(2名)
- 19日：北海道大学理学部地鉱教室(7名)
- 21日：北海道教育大学・岩見沢校(24名)

平成5(1993)年11月：

- 17日：富川ひばり幼稚園(78名)
- 18日：富川ひばり幼稚園(59名)

平成6(1994)年1月：

- 8日：札幌市立南が丘中学校(24名)

平成6(1994)年3月：

- 29日：厚真町立上厚真小学校(11名)

## ●運 営

### I おもなできごと

平成5(1993)年4月:

3~7日:学芸員, 日本地質学会第100年記念大会(東京)に参加

10日:帯広まりもバス(株)ガイド新人研修(6名)

15日:旭川近藤バス(株)ガイド新人研修(7名)

平成5(1993)年5月:

2日:長頸竜化石発見(長和:鳴原崇之氏:札幌市在住)

3日:東海大学総長松前達郎氏(22名)来館

平成5(1993)年6月:

12日:毎日新聞社文芸部長(東京本社)田中良太氏来館

平成5(1993)年7月:

9日:長頸竜産地(長和)巡視

10日:苫小牧市教育研究会理科部会(9名)研修

21日:鶴見大学歯学部(3名)来館

28日:利尻町立博物館学芸員(3名)来館

平成5(1993)年8月:

4日:岩手県林産振興課(22名)視察

6日:ふるさと振興人材育成国内研修(17名)視察

26日:酒井 彰(工業技術院地質調査所地質部)主任研究官来館

平成5(1993)年9月:

8日:大弓俊樹(総務庁北海道行政監察官)監察官視察

21日:登別市郷土文化研究会(27名)視察

22日:北海道高等学校理科研究会苫小牧支部(18名)研修

25・26日:学芸員, 長頸竜発掘指導(小平町)

平成5(1993)年10月:

1日:北海道自然保護協会(25名)視察

1日:北海道開拓記念館・開拓の村文化振興会(75名)視察

1・2日:学芸員, 北海道博物館協会学芸職員研修会(江別市)に参加

9~11日:学芸員, 長頸竜発掘指導(小平町)

21日:仲谷英夫(香川大学)助教授来館

平成5(1993)年11月:

6日:韓国自然農業中央会趙漢珪氏来館

10日:北海道開発庁荒畑開発専門官来館

21日:旭川道北バス(株)ガイド研修(12名)

25日:空知教育研修センター(11名)研修

25日:斎木健一・重田康成(三笠市博物館)学芸員来館

平成5(1993)年12月:

3~4日:学芸員, 「平成5年度博物館活動交流推進会議-道央ブロック学芸員等会議

平成6(1994)年1月:

15日:朝日新聞社編集局長来館

平成6(1994)年2月:

6日:マルチスライド更新

8日:胆振支庁長来館

8日:北海道総務部知事室毛利参事来館

8日:北海道財務局調査官来館

25日:穂別地球体験館新人ガイド研修(7名)

平成6(1994)年3月:

9日:学芸員, 道博協・学芸役員会(於小樽博物館)参加

23日:仁和コロニーにアオサギ飛来(笠巻袈裟男氏確認)

26日:学芸員, 日本地質学会札幌支部総会(於北海道大学理学部)に参加, 講演

27日:赤松守雄(北海道開拓記念館)来館

31日:佐藤 稔館長退職

### II 町外自治体などの視察

平成5(1993)年4月:

22日:釜石市助役ら(4名)視察

平成5(1993)年6月

2日:足寄町議会議員(10名)視察

平成5(1993)年7月:

16日:滋賀県甲西教育委員会(3名)視察

27日:留辺蘂町議会議員(7名)視察

平成5(1993)年8月:

6日:宮城県三服町教育委員会(20名)

6日:蘭越町教育委員会(24名)

8日:美幌町教頭会(11名)視察

10日:三石町教育委員会(12名)視察

24日:厚真町議会議員(23名)視察

平成5(1993)年9月:

1日:余市町教育委員会(7名)視察

2日:胆振教育局及び胆振管内市町村教育長(22名)視察

25日:伊達市教育委員会(11名)視察



平成5(1993)年10月：

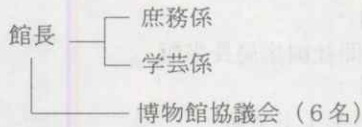
21日：胆振東部一市六町議会議員(23名)視察

28日：胆振管内市町村会計事務職員(25名)視察

平成6(1993)年2月：

8日：新篠津村議会議員(21名)視察

### III 組織



職員名簿(平成6(1994)年3月31日現在)

館長 佐藤 稔  
 庶務係 佐藤 貞子  
 学芸員 地 徳 力

博物館協議会委員(平成6(1994)年3月31日現在)

会長 久保田 瑞 真  
 副会長 荒 木 新太郎  
 委員 村 上 隆  
 委員 小石川 武 美  
 委員 大久保 文 夫  
 委員 藤 江 保 徳

(平成6(1994)年7月31日まで)

### IV 利用状況

【常設展示観覧者】

平成5(1993)年4月～平成6(1994)年3月

月	一般	学生	計	開館日
4	1,017	340	1,357	25
5	4,784	2,325	7,109	22
6	1,559	1,138	2,697	23
7	2,660	1,493	4,153	26
8	6,500	3,747	10,247	25
9	2,362	2,043	3,405	23
10	3,063	807	3,870	26
11	1,050	182	1,232	21
12	73	24	97	24
1	87	58	145	19
2	161	18	179	23
3	408	136	544	25
計	23,724	11,311	35,035	282

### V 平成5年度予算

費目	予算
報酬	84
共済費	184
賃金	3,307
報償費	371
旅費	320
需用費	6,170
役務費	447
委託料	8,325
使用料及び賃借料	959
原 材 料 費	150
備 品 購 入 費	1,580
負担金補助及び交付金	165
博物館費合計	22,062

(単位：千円)

### VI 利用案内

【開館時間】

午前9時30分～午後4時30分

【休館日】

月曜日・祝日の翌日・毎月月末・年末年始  
 (12月30日～1月6日)

【観覧料】

	一般	学生
個人	300円	100円
団体	200円	50円

注：未就学児童は無料(要大人の付添い)

\*学生：小・中学生・高校生

\*\*団体：10人以上

【減 免】

「(穂別町立)博物館の展示場に入場しようとする者は、観覧料を納付しなければならない(穂別町立博物館設置条例、第6条)」が「(穂別町)教育委員会は、特別の理由があると認めるときは、観覧料を減免することができる(同条例、第7号)」。減免は、教育・研究・福祉を目的とし、以下に従う。

穂別町立博物館施行規則 第6条

条例第7条の規定による観覧料の減免は、次のとおりとする。



(教育目的)

1) 穂別町立小学校及び中学校が教育計画のため入館する場合

(研究目的)

2) 国・地方公共団体及び学術研究機関の職員が調査・研究のため入館する場合

(福祉目的)

3) 老人福祉法(昭和38年法律第133号)第14条に

規定する町内の老人福祉施設が収容者の養護計画の実施のため入館する場合

4) 精神薄弱者福祉法(昭和35年法律第144号)第18条に規定する町内の精神薄弱者福祉施設が収容者の養護計画の実施のため入館する場合

(公益目的)

5) 前各号に定めるもののほか、公益上または教育振興上特に教育長が必要と認める場合



穂別町立博物館館報

第11号

平成5(1993)年度

発行 1994年7月31日

発行者 穂別町立博物館

〒054-02

北海道勇払郡穂別町字穂別80番地の6

TEL (01454) 5-3141



